



# Little Players News

No. 185 2013年 8月

**暑**い日が続いていますが、熱中症にならないように水分を補給してピアノを練習してください！

9月8日(日)の発表会は、黒川小学校の日曜参観日と重なったため、開演時間を30分遅らせ、午後1時半開演の予定です。

## 紹介コーナー



♪ 今月もロシアの作曲家ストラヴィンスキー(1882～1971)の作品についてお話したいと思います。ストラヴィンスキーの三大バレエ音楽「火の鳥」「ペトルーシュカ」に続いて「春の祭典」です。

### 春の祭典

1913年に完成し、20世紀の近代音楽の傑作に上げられるこの作品は、ロシア・バレエ団のために作曲されたバレエ音楽です。変拍子の複雑なリズムで、難曲としても有名です。

内容は、ストラヴィンスキーが見た白昼夢が基になった難解なもので、春を迎えたある2つの村同士の対立とその終息。大地の霊さんと太陽神イアリロの怒り。そして、イアリロへの生贄として一人の乙女が選ばれて生贄の踊りを踊った末に息絶え、長老たちによって捧げられるというようなものです。

ディズニーの「ファンタジア」では、地球の誕生から生命の発生、恐竜とその絶滅までのドラマがこの「春の祭典」の曲に合わせて繰り広げられます。「ファンタジア」の音楽で作曲家が生存していたのは、ストラヴィンスキーだけでした。ストラヴィンスキーは、「ファンタジア」を観て、内容が自分のイメージと大きく異なっていたことに衝撃を受けたそうです。

演奏困難な曲として数々の逸話も残っていて、不規則なリズムと不協和音の為に、指揮者が演奏途中で曲を見失ない、TVの生放送が中断してしまったとか、あのカラヤンが、現代曲を得意としている日本人指揮者 岩城氏に「春の祭典の変拍子は、どのように振れば良いのだろうか」と相談しに来たといった話があります。

### お勧めのアルバム

「ファジル・サイ 春の祭典(ピアノ版)」。まさに「一人オーケストラ」という感じで、演奏しているのは、ピアニスト、ファジル・サイ。ピアノ1台でオーケストラの演奏を再現したという凄い録音です。実は、多重録音(重ね録り)なのですが、初めてこのアルバムを聴いた時は、1台のピアノでどうやって演奏しているか不思議でした。ピアノの表現力の幅の広さに驚かされる名盤ですので、是非、聴いてみて下さい。

西川音楽教室

<http://soundwalking.com/>